

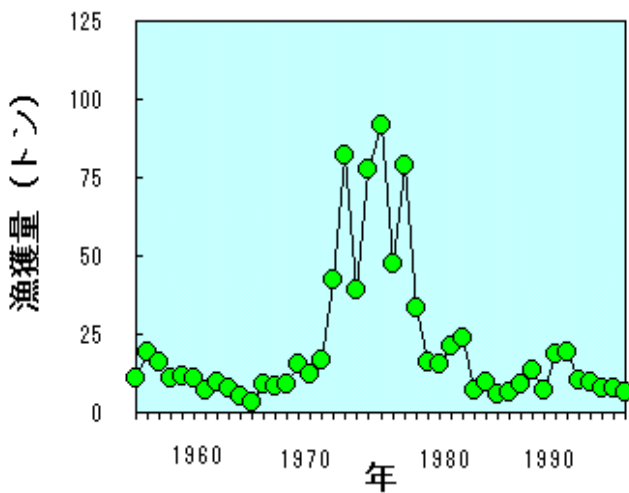
夏の代表魚イサキの資源研究

主任専門技術員 渡辺健一

イサキの標識放流風景

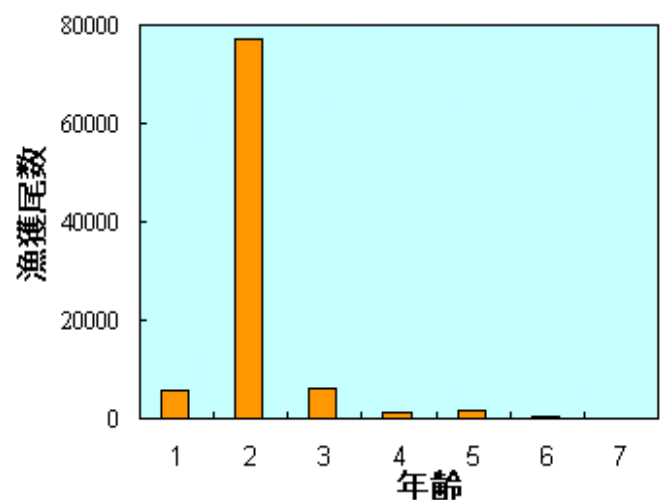


徳島県沿岸では1994年頃から水温が2度ほど上昇しており、この頃からイサキの成長、産卵期が早くなる傾向が認められている。地球規模の温暖化との関連が懸念される。イサキは、1970年代に漁法の改良によって大量に漁獲されるようになり、その頃の夏場の釣漁業を支える重要な魚種であったが、その後、強い漁獲圧によって資源は大きく減少した。現在、牟岐大島周辺では、資源管理のために、漁獲の大半を占め、しかも未成熟魚が四割近くを占める二歳魚保護のために20センチメートル未満の小型魚の保護(再放流。一割程度のみ二歳魚を保護)が行われているが、理想的な管理のためには、23センチメートル、24センチメートル未満の保護(二歳魚の七、八割を保護)が望ましい。また、遊魚者も増加しており、その協力が求められる。



▲牟岐大島における一漁協の釣漁獲量

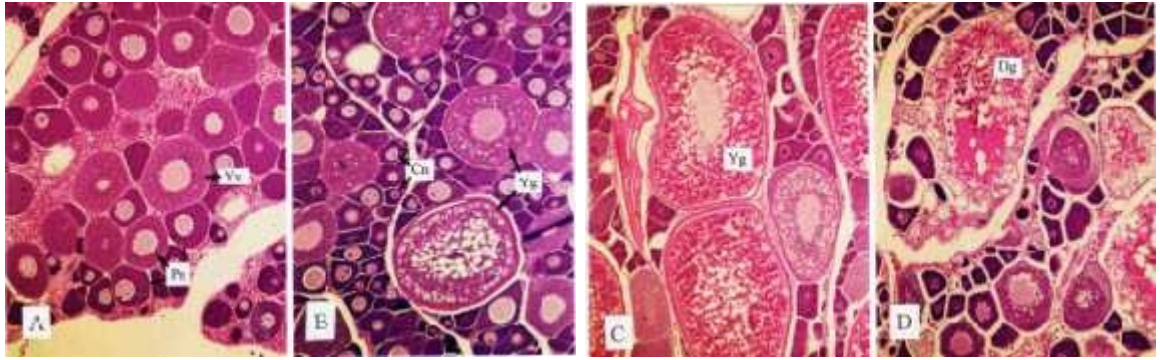
1970年代の漁獲量の増大は、漁法の改良



▲牟岐大島周辺のイサキ年齢別漁獲尾数

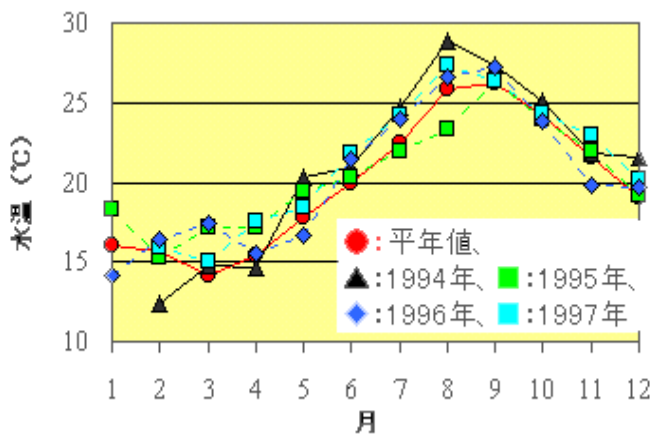
(1994年)2歳魚が大半

による。1970年代後半になって急減

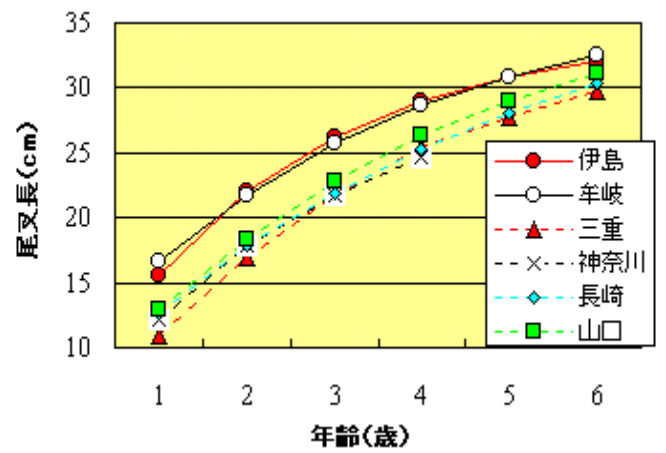


▲イサキ卵巣中の卵細胞

Cn:染色仁期, Pn:周辺仁期, Yv:卵黄胞期, Yg:卵黄球期, Dg:退化卵



▲牟岐大島の水温



▲各県のイサキの成長

徳島県沿岸のイサキは、成長が早くなっている。

他県のイサキの成長は、過去水温が低かった時のもの。